

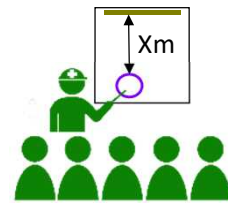
毎年、地下埋設物の事故が多数発生しています ～埋設物の位置を正確に把握することが重要です～



近畿地方整備局管内において、地下埋設物の事故が毎年、多数発生しています。地下埋設物事故は確認不足と「大丈夫だろう」という思い込みに起因するものが多数あります。確認不足と思い込みを根絶できれば防げる事故ともいえます。地下埋設物に近接して作業を行う際には、埋設物の位置を確認し、慎重に作業しましょう。

作業前には・・・

- 施工計画立案に先立ち、設計図書や貸与された資料等を調査して、**地下埋設物の状況について確認**しましょう。
- 埋設物近くや近接した箇所で工事を行う場合には、**各埋設物管理者との立会、事前協議を実施**したうえで施工計画を立てましょう。
- 埋設物の種類及び特性、作業手順、万が一埋設物事故が発生した場合の対処方法を、関係作業員全員に、**事前に十分周知**しましょう。



試掘の実施

- 埋設物の存在を認識していても安易に掘削し、事故が発生する事があります。
- 埋設物の**位置の推測は厳禁**です。埋設物が予想される場所・近接箇所で施工・作業をする際には、試掘を行い、**埋設物の種類・位置・構造を目視により確認**しましょう。
- 試掘によって埋設物を確認した場合、その位置等(平面・深さ)や周辺地質の状況等の情報を道路管理者及び埋設物の管理者に報告しなくてはなりません(土木工事安全施工技術指針 第3章第1節2)。
- 必要に応じ、探査機等による非破壊検査を併用することも検討しましょう。



埋設箇所・埋設物周辺の作業中は・・・

- 作業員は定められた**作業手順のとおり確実な作業**を行いましょ。
- 埋設物が図面に記入されていないことがあること、間違って記入されていることがあることに留意して、慎重に作業を行いましょ。
- **埋設物の近くは手掘りで作業**を行いましょ。やむを得ずピックやツルハシ等を使用する場合には、埋設物を傷つけないよう十分に注意して作業しましょ。
- 埋設物の近接箇所を機械掘削する場合には原則として**刃先監視員を配置**し、オペレータは刃先誘導員の合図によって操作しましょ。
- 機械掘削する場合には、埋設物に振動や衝撃を与えないよう作業しましょ。
- 埋設物の近接箇所で明り掘削を行う場合には、埋設物の補強や移設等により危険を防止する措置を講じましょ。
- 作業中に**異変を確認した場合はためらわず作業を中止**して、安全措置を講じましょ。



埋設物の確認後は・・・

- 埋設物を確認した後は**マーキングや目印を設置して管種・管径を明示**しましょ。
- 注意喚起看板や掲示板等に管種、位置、深さ、管径、埋設平面図、緊急連絡先、避難経路図を掲出して**安全の「見える化」**を図りましょ。
- 埋設物の吊り防護を行った場合には定期的に点検を実施し、埋設物及びその周辺に異常がないことを確認しましょ。

ひとつひとつの確認作業を積み重ねて事故を防ぎましょ。

ハンドガイド式草刈機との接触は大きな被害をもたらします ～操作ミスによる事故を防ぐため、正しい操作方法で作業しましょう～

ハンドガイド式草刈機の使用中にオペレーターが転落し、緊急停止装置を適切に使用していなかったために被害が拡大した事故が発生しました。取扱説明書・計画に準じて作業を行いましょう。

事故事例 緊急停止装置を適切に使用せず被害拡大

【事故概要】ハンドガイド式草刈り機で堤防法面を除草していた。除草機械の搭乗ステップの角度調整シリンダーを固定している回転軸固定ボルトが破断し、搭乗ステップが不安定となって作業員がバランスを崩し、除草機械から転落した。転落後、被害者の上を除草機が走行し負傷した。

【主な要因】①緊急停止装置の紐が適切に装着されていなかった。
②角度調整シリンダー回転軸固定ボルトが作業中に破断した。
③傾斜地で旋回し不適切な操作（下りバックの操作）を行った。

【再発防止対策】①緊急停止装置が確実に機能するよう装着するとともに視認性の向上を図る。
②除草機械の操作方法に関しては「ハンドガイド式草刈り機の安全対策マニュアル(案)」による再教育と安全訓練を実施する。
③除草機械においては、故障個所の修理や使用前点検のクロスチェックを行う。

【参考】安衛法29条（元方事業者の講ずべき措置等）元方事業者は、関係請負人及び関係請負人の労働者が、当該仕事に関し、この法律又はこれに基づく命令の規定に違反しないよう必要な指導を行わなければならない。

ハンドガイド式草刈り機の安全対策マニュアル(案)

https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/jikoboushi/qgl8vl0000004scc-att/R3.2_handogaido.pdf



事故防止ポイント

- 除草作業中の事故は、安全対策を講じていても作業者のちょっとしたミスや気の緩みが原因で発生します。過去には、オペレーターがハンドガイド式草刈機の下敷きになって死亡する事故が発生しました。
- 作業前には**正しい操作方法を取扱説明書で確認**し、作業中は**無理な操作、不安定な走行、急発進・急停止・急旋回は絶対に行わない**ようにしましょう。
- 異常振動や異音・異臭の発生など機械の異常を確認したら、直ちにエンジンを停止し、原因を調べましょう。再使用は修理・調整の終了、または異常がないことを確認してから行いましょう。
- 草の繁茂によって現場状況が分からず、距離標や配管ボックス等の構造物、敷設ケーブルを損傷してしまふことがあります。必ず作業箇所的事前調査を行い、確認した構造物・ケーブルの周囲は**手作業による先行草刈り**を行い、**構造物や敷設ケーブル等を露出させ、ポール等で目印を設置**し遠方からも明瞭に確認できるようにした後にハンドガイド式草刈機による作業を行いましょう。
- 機械から離れる時はエンジンを停止し、ブレーキレバーを引き、ブレーキロックさせた状態にして、必ず鍵を抜きましょう。
- ハンドガイド式草刈機以外の作業者が作業範囲に立ち入らないようにするのはもちろん、通行人が誤って作業範囲に立ち入らないよう、工事看板を良く見える場所に設置する、監視員を配置する等、**第三者が立ち入らないよう周知徹底**しましょう。
- ハンドガイド式草刈機は飛び石防止措置が講じられているものの完全に防止することはできません。道路や住宅に近い場所では、作業順路の調整や低速走行で慎重に行いましょう。また、必要に応じて防護板やシートなどを使用しましょう。
- ハンドガイド式草刈機は肩掛式による除草作業と比較して施工速度が速く、単独作業となりやすい特性があります。その結果、事故を起こしても発見が遅れる可能性があるため、**定期的に草刈機の位置や運転状況を確認**するようにしましょう。

危険性についてよく理解したうえで作業を行いましょう。